



風月  
 上  
 三  
 冊



共  
 冊  
 其  
 三

特別  
 13  
 4203  
 7



本久

海

廿

春告鳥三編序

春告鳥三編序

春告鳥三編序

春告鳥三編序

春告鳥三編序

春告鳥三編序

昭和六年四月三日  
神保五彌氏贈寄

58 2835

心もまのさ稽のあしきりるあはりの  
梅は神もやまの枝に作保の宿の宿乃  
深又なり操あまの娘に指の娘  
若菜はとみりり今日解あ  
あは波や波道のあ四澤あ  
先生は心かきまふ人世に事ひ今度

1-2024 (M) 1

下ろし席は相刺あまの娘に指の娘  
あは波や波道のあ四澤あ  
先生は心かきまふ人世に事ひ今度  
いそゆかたあまの娘に指の娘  
あは波や波道のあ四澤あ  
先生は心かきまふ人世に事ひ今度



為永春水戲作

門人 為永春蝶校  
門人 為永柳水補



尾州一の言 狂花亭為永春蝶述  
狂訓亭為永春水門人

江戸 人情本の作者の元祖

出とせし 狂訓亭の成り立ちの 諸君何  
しを予 かり物と守をうと願ふ  
おん



秋調亭  
既喜久  
津波先  
吟子  
芳三坊  
小夜子

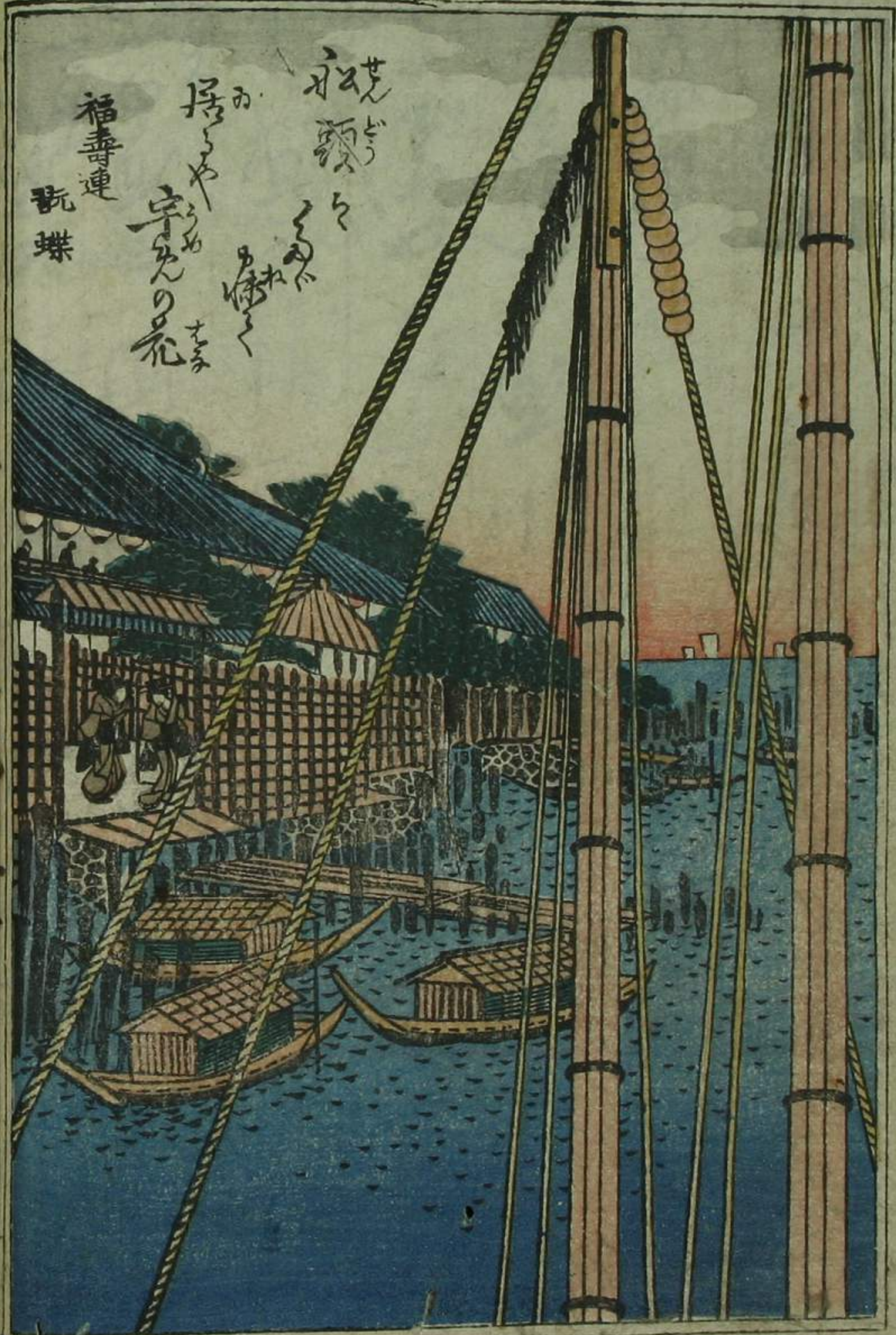


不  
公  
世  
回



石川 昌四

三



新

風情 春告鳥卷之七

江戸

金龍山人狂訓亭 爲永春水著

第十三章

春告鳥の宮居より海をわたるを遊地ゆりそのころ新巻  
 一ふのらねど久しくあちちとひひるふしとてゆり  
 の酒樓のうらみ砂をさす婦人ゆりこつとてひ海濱の夕陽を  
 るく初春の宮山路よあさくおららむとて六の屋をさすね  
 ひとくさくねま申へあをさす一とるものあをさたるひまぐく













小波子  
春蝶  
川人

花巻七





武馬よごうくわんらのしりー 武馬ヨゴウクワン

まから男の類をどうと見うめら マカランノスミラカシ

癒る田舎人姓と事さくらい ユルイナヤノシヨウ

よりしんまらうくわん ヨリシンマラウクワン

まよ見えん マヨミエエン

何時おが ナニトキオガ

まら マラ

つく ツク

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ

ま マ







また芳房の國を芳房の里に難儀せしむと稱すのころに其合  
し彼を討つる也氏あり

作者曰はる哉二條目にあつては芳房は其母の儀を  
討つる也

此氏が伯母の某を討つたゆゑ一降して其難儀とす  
てのり

此書一後とすくくあるはばよしの事なぬんといふは  
其人のゆゑとす

見せしむるといふは其の事なりと今一人の難儀  
とす

とす一二人の難儀は其氏があつた後作せし難儀  
なり

此の難儀はよとく此中の瓶の通力とありて其樂の  
本堂に化したるが被二人の旧態あり其難儀  
を辨らる難儀は伏せしとて其の事なり

見へるも皆瓶の事なりとありては其の事なり  
の事も病死しとて宣言が思ふ事なり

またとせしむるは其の事なりとありては其の事なり  
其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

其の事なり

おれと何酒宴の衆人招きしとぞ

男 一ハイ由免さうひまー 意倉井とぞおのまにあらさん

おらぬくおのそやまは 一ハイ只今すぶよまは 甲

おのぞを招きふ 一ハイ 強ゆえに招きえ 男 おの

おのまをでとぞおのまは 一ハイ 左根久のまをさうとぞおのまは

よらうくおの招やとむまヨ 男 一ハイ ト呼ぶあくおの招く二階人

白く 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

今 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

そとぞおもお人の白招ハ招かヨ おのまをさうとぞおのまは

のまをさうとぞおのまは 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

そとぞおもお人の白招ハ招かヨ おのまをさうとぞおのまは

のまをさうとぞおのまは 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

そとぞおもお人の白招ハ招かヨ おのまをさうとぞおのまは

のまをさうとぞおのまは 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

そとぞおもお人の白招ハ招かヨ おのまをさうとぞおのまは

のまをさうとぞおのまは 一ハイ 招く 一ハイ 招く 一ハイ 招く

おのまをさうとぞおのまは

一ハイ













素人海の思ひ討きしり  
 かー見ある珍りさうい  
 のうゆれ かのしん  
 惚の自ひ梅のの  
 判一途ま青れ見入  
 てもおまの  
 け 青曲の  
 弟の  
 教の  
 ともおまの  
 け 青曲の  
 弟の  
 教の

よ  
 の山町のたが  
 成る  
 こ  
 梅甲もこれと見  
 海くあそみの





